

令和6年度 第1回学校運営協議会
(兼 高校と地域で創る未来のプロジェクト事業地域連携組織)
議 事 録

日時 令和6年6月4日(火)13:30～16:00
場所 岡山県立勝間田高等学校 記念館3階 会議室
(委員15名のうち、10名が出席)

1 校長挨拶(任命書交付)

- 委員を任命するにあたっての根拠
- 美作地区東部中学校卒業(予定)者数の推移
- 令和6年度各系列(コース)在籍数
- 令和6年度学校経営計画書

2 出席者紹介

3 学校運営協議会について

(1)岡山県立学校における学校運営協議会の設置について

- 岡山県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則
- 岡山県立学校における学校運営協議会の運営等に関する要綱
- コミュニティ・スクール図説

(2)岡山県立勝間田高等学校における運営協議会について

4 会長選出

水嶋 淳治 氏 で承認

5 会長挨拶

生徒たちが町の文化ホールで発表会をしたり、全国植樹祭で県内唯一の林業を学べる高校ということで、育てた苗木の贈呈や介添え、開会宣言など大変に活躍してくれたり、生徒にとっては成功体験になったのではないかな。そうした中で、現在は、普通科高校が苦戦しているのではないかなと思う。勝間田高校で学んで、もっと専門的なことを学びたいと大学へ進学するなど、変わってきているのではないかなと思う。さまざまなPR活動により少しずつ勝間田高校の良さが地域に再認識されてきており、リブランディングができつつあるのではないかな。津山市以外の25市町村で「県立高校の在り方を考える会」を立ち上げている。地域が疲弊し過疎化する中で、地域の特性をいかして何ができるのかを、県に任せるだけでなく われわれ市町村行政サイドも考える会である。令和10年以降の高校の在り方について考える会である。今年度、勝間田高校は110名の入学生がいるが、林野高校と合わせても、全体ではこの地域の生徒は減っている。そのような中で一番大切なのは、子どもたちが「何を学びたいか」である。「勝間田高校で勉強したい」と思える学校になるように、委員のみなさんにはこれからもご協力をお願いしたい。

6 本校の現状と課題

- (1)令和5年度の教育活動について
- (2)令和5年度学校評価書について
- (3)令和6年度学校経営計画等について
- (4)令和7年度教科書選定の観点について
- (5)令和6年度の主な行事について

(6)高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業について

7 質疑・応答

【委員 A】

学校の予算の中で、県費の高校コーディネーターの配置の人件費と勝央町からの財政支援のリブランディング関連事業の人件費が重複しているように見えるが。

【議長】

県からの予算が難しそうだったので、町が面倒をみようと思って付けた予算なので、地域と連携して協力してくれる人など柔軟な発想で使ってほしい。

8 意見交換

【委員 B】

リブランディングによりだいぶ印象が変わってきたということだが、リブランディングされて今、勝間田高校は地域からどういう印象なのかをどうやって調べているのか。町民アンケートなどを実施したりしているのか。

【事務局】

まず、リブランディング会議については、原則毎月開催しており、しょうおう志援協会と勝央町役場と本校担当者が本校のリブランディングについて話をしている。年度末に改めて、リブランディング会議の意義について話をしたが、具体的に何かができたというだけでなく、異なる立場でそれぞれの視点で話をし、共通理解を深めることに非常に意義があると考えている。アンケートについてはできていない。ただ、過去の勝間田を知っている方々が本校に来るといい意味で驚かれる。生徒も落ち着いており、学習環境も整っているとおっしゃっていただく。そうしたことがじわじわと地域に発信できていると感じる。しかし一方で、年配の方々を中心に根強く以前の印象が残っている。粘り強く、等身大の現在の状況を発信し続けていくことが大事であり、そのための何らかの実態調査は必要であると考えている。

【委員 B】

その調査の結果を公表することがイメージの刷新につながると思う。私から2つ提案がある。先日の植樹祭は本当に素晴らしかった。最近こうしたジャンルで感じているのは、ネイチャーポジティブについて。生態系の保護を世界でどう実現するのかということ。環境省の30by30は、国土の30%の自然環境の保護を目標に掲げて、全国100地域くらいはそうした保護地区に指定するということをやっている。岡山県では水島だけ。そこで、勝間田高校の演習林などの土地をそうした場所にしていければ、岡山県内には例が少ないし、PRにもなるのではないか。

もう一つの提案は、ユニバーサルな教育現場について。去年も高校生たちが生理用品を入手しやすい環境を作ることを応援させていただいたが、まだまだジェンダーギャップについて理解が低いところがあり、スクールミーティングでそうしたことを考えていただけたら嬉しい。

【事務局】

先日の全国植樹祭の関連イベントでもある全国林業後継者大会でも、林業は木を売って育てるだけでなく、生物多様性や生態系を維持していき、現在の自然環境を未来につなげていくことも林業の意義であるという話があり、それを本校の生徒もパネリストとして聞いており、改めて自分たちのやっていることに誇りを持てるのではないか。

【委員 C】

先ほどの提案についてもう一度説明してほしい。

【委員 B】

環境省の30by30は、国土の30%の自然環境の保護をしようという取り組みで、全国で1

00地域くらいを募集している。現在、岡山県では水島だけ。県北はまだ指定されている地域はない。さらに、学校が主導するという例はないので、そのこと自体に非常に価値がある。

【委員 C】

放置された自然ではなく、適度に手を入れた自然ということか。

【委員 B】

そうです。あと生物保護も。

【議長】

町もこのことについて職員に研究させようと思う。

【議長】

学校評価書の中の情報発信や広報の中で新たな取り組みとは何か。また、「マーケティング」の実践の中で商品開発とあるが、具体的に何か計画があるのか。さらに、県立高校では収益事業は行わないということだが、地域の企業と連携して商品開発などを行い、活動費くらいの利益はあってもよいのではないか。

【事務局】

情報発信や広報活動の中で新たな取り組みは、「マーケティング」。それ以外は、基本的に昨年度から引き続きのもの。PTA の活動については、有難いことに広がりを見せている。体育祭でも飲み物の販売をしてくださる。「マーケティング」については、まだ始まったばかりで具体的なことはないが、各系列で横並びにする必要はない。それぞれの特長をいかしたものをやっていく。

【校長】

この「マーケティング」の取り組みは2年前にやろうと言った。だいたいやろうと言ってから2年にかかることを知っておいていただきたい。本校は、農業の6次産業化が校内でできる。商業高校は外から仕入れて売るなど学校の中だけでは完結しない。勝間田高校は、学校の中で作ったものをビジネスコースが売るといことができる学校であるが、実はそれができていなかった。そこで、これを教科、科目に位置づけようとしたのが2年前のこと。今年の4月からやっとその教育課程ができるようになった。「マーケティング」は商業の科目なので、商業の教員が教えなければならない。ただし、これを全て商業と農業の T.T にしている。取り扱う題材は、各系列のもの。そこで、横並びである必要はないという内容でやりかけている。やりかけた途端に、全国商業高等学校協会が興味を示している。農業の教員と商業の教員が一つのことをやるのが新しい。県からも今後の成り行きについてウォッチさせてほしいと言われている。教科の壁を超えて一つの科目を教えること自体が珍しい。あえて横並びにしないということは、3つのパターンが出てくる。商業の教員も3系列全て違う教員が担当している。農業の教員も違うため、ペアが全部違う。私自身も年度末を楽しみにしている。

【事務局】

商品開発についてですが、昨年度はブーランジェリーミーツ様と商品開発をした。本年度はまだ具体的な取り組みは聞いていないが、地域と連携した取り組みができればと考えている。

【議長】

収益につながる取り組みになっていってくれたらと思う。

【委員 D】

以前、「サバ缶宇宙へ」というものがあり、世界へ発信できることもある。そのためには時間がかかるが、後輩に脈々と受け継がれていくことも大切。勝間田高校でも、森林系列にあるレーザー加工機を使った商品開発ができるのではないか。

勝央町は町内の小・中・高のつながりがあり、このつながりを重視していきたい。高校入学後どうなったのかは、子どもさんを送った方にも責任がある。つながりを密にすることで、退学率や留年が減ってくれればと思う。そのためにも今後とも協力をお願いしたい。

～10分休憩～

【事務局】

先ほど、本年度はまだ商品開発の具体的な取り組みはないと申しましたが、勝央町の特産品であるアスパラガスをいかした商品開発を食品コースで進めている。

【委員 E】

勝英アスパラガス部会があり、部会の戦略としては、一つは生産力のアップ、もう一つについては、勝英は県最大のアスパラの産地だが、地元には意外と知られていないため、地元への PR がある。そうした中で、まず、職員が生徒さんに向けて育て方の授業を行い、次に奈義町にある選果場の現場も見えていただいた。その後、特産品の PR のため、商品開発の提案をさせていただいた。

【委員 F】

今回初めて教科書の選定理由についての資料があるが、教科書選定の方法や制度が何か変わるのか。

【校長】

教科書選定について、公にすることが求められている。そこで、まずは PTA に入ってもらい教科書選定委員会を開いていた。さらに、今年度からは学校運営協議会にも選定の方針等を示し、承認をもらうことになっている。

【委員 G】

商品開発やマーケティングなどの展開は、普通科高校にはない。商業や農業といった産業を学ぶ学校だからできることだと思う。

【委員 H】

最近、新聞でなぎなた部のことや女子生徒がチェーンソー大会に出場したことを知り、自分のことのように嬉しい。商品開発については、毎月ゆのこうマルシェに参加されているということで、準備など大変だとは思いますが、自分たちが開発した商品をこうした場で売れるというのは楽しいだろうと思う。

【校長】

なぎなたについては、先日の県総体で1年生が5位となり、中国大会へ出場する。昔は全国優勝していたが、指導者もいない状態だったので3年前に廃部になった。しかし、勝間田のなぎなた部を復活させるため、指導者が赴任してきた。一度廃部しているため、もう一度同好会から始め、今年の生徒総会で部になった。1年生が入り、2か月で中国大会まで仕上げた指導者がいるので、期待していてほしい。

【議長】

なぎなた部がなくなるのは寂しかったが、心強い。

【校長】

伐木チャンピオンシップについては、最年少で女性部門に参加した。男子はいろいろとクラスがあるが、女子は一つしかなく、プロの最前線の人たちの中でやっていたので、結果は最下位だった。しかし、いろいろと取材も入ってきており、注目度は高く、学校の広報という面でも非常に効果が高かった。引率した教員からは、参加した生徒が、「体の使い方が勉強になった」と言っていたと聞いている。

【委員 D】

森林コースは今、女子生徒は2年生に何人いるのか。

【学校】

2年生に3人、3年生に1人。1年生に1人。1年生は、「SAVE JAPAN プロジェクト」に参加した生徒。

【委員 D】

女子も伐木チャンピオンシップに出られたり、女子が森林コースに入っていたりということが知られ、高い目標をもった生徒が集まると良いと思う。

【委員 A】

それぞれの立場で外に向けて一步踏み込んだ活動ができればよい。例えば、外からアイデアプランコンテストを募集するなど、リスクも伴うが、何か新しいことができればいいと思う。

【委員 D】

高校生からこうやりたいということが出てくるといいと思う。弓道部のその後の指導者についてはどうか。

【事務局】

昨年度まで顧問だった2名については、一人は新採。もう一人は、本校に20年以上勤務していた。この春に一緒に異動になった。今年度は、一人は新採だが、もう一人は農業の実習教員で、弓道経験者ということもありサポートしている。

【委員 B】

マーケティングはどう売るかというもの。「津山フレッシュデリバリー」というサービスがあり、農家の方や地域から野菜を預かり、LINE で買いたい人を探し届けている。そうした流通などについても生徒と一緒に考えてみてはどうか。

【校長】

現在、ドリームファームのイベント等で残ったものを、「津山フレッシュデリバリー」さんに買い取ってもらっており、とても助かっている。商品開発の方でもタイアップしてもらえたら有難いと思っている。

【委員 F】

先ほどから何度も「マーケティング」という言葉が出ている。商品開発をして、売れるようにするというのが商業高校ではないのにできるのはすごい。商業と農業の先生がタッグを組み、垣根を越えて指導する。生徒に他校ではやっていないことを自分たちはやっていると思わせる。そして、自分たちが作った商品を地域に売ること、自分たちはすごいことをやっていると思い、学校の魅力発信にもなっている。これは、よいスパイラルになっているのではないか。先生方が、真摯にやってこられたことが、新入生110名という数字に表れているのではないか。この学校運営協議会は、学校の内側にいる先生方では解決できない問題を、我々で解決できることがあればとスタートした。会としても成熟してきたと感じている。

【議長】

立ち上げ当初は悪いイメージを払拭するところからのスタートだったが、そこからもっと進んだ話ができていると感じている。先生方も忙しいと思うが、ぜひ引き続き頑張ってもらいたい。

9 その他

(1)第2回学校運営協議会について 11月～12月上旬で調整

(2)その他

○ドリームファームのイベント紹介 16:00～